

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|------|----|------|----|----|
| 市長 | 副市長 | 教育長 | 教育次長 | 課長 | 課長補佐 | 係長 | 記録 |
| | | | | | | | |

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課生涯学習係】
【会議名：第3次糸魚川市生涯学習推進計画
第1回策定委員会】

| |
|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 開示 |
| <input type="checkbox"/> 一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当) |
| <input type="checkbox"/> 不開示 |
| <input type="checkbox"/> 時限不開示 (開示: 年 月 日) |

会 議 録

作成日 令和5年6月14日(水)

| | | | | | |
|-----|---|----|---------------|------|------------------------|
| 日 | 令和5年6月12日(月) | 時間 | 13:30 ~ 15:25 | 場所 | 糸魚川市役所 2階203・204会議室 |
| 件名 | (議題) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について(案) | | | | |
| 出席者 | 【出席委員】16名(敬称略) 水澤 哲、青山 範夫、井崎 由紀子、清水 博、村井 康司、渡邊 秀幸、 橋立 茂樹、和泉 裕一、長 砂男、松本 香織、澤口 裕宇子、矢島 好美、 渡邊 文恵、西澤 隆 (欠席者: 渡邊 闡壽、田邊 和子、園田 和子) | | | | |
| | 【事務局】(生涯学習課) 伊藤課長補佐、須澤係長、伊藤主査、七澤主査、作本主査、 岩崎主査、小田嶋主査、大西主任主事、齊藤主事 | | | | |
| | 傍聴者定員 | | 5人 | 傍聴者数 | 0人 |

会議要旨

進行: 事務局

1 開会 (13:30)

挨拶 委員長

2 自己紹介 委員及び職員全員

3 協議

(1) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について(案)

事務局説明(振り返りを中心として説明)

(振り返りについての質疑応答および意見交換)

委員: コロナ禍で事業の様子はこういったものだったのか。地区の祭りなどは3年間中止になっていたのが気になる。

事務局: 一時的に中止にした事業等もあり減少したが、大きくは変わっていない。地区の行事については地区での判断で行ってきていないところもあると思っている。

委員: 部活動の地域移行について令和3、4年から準備を進めていたのか。令和5年になっても連絡等がない。上越市、妙高市と比べて遅れているように感じる。

事務局: 昨年度末から各地域で現状の説明会は行わせていただいた。進捗として停滞してしまっているところがあるため、今後はスケジュール感を持って進めていきたい。

委員：コミュニティスクールに関して現況を教えてください。

事務局：一例だが青海地域地区公民館連絡協議会が青海中学校のコミュニティスクールと連携してサマークリーン活動などの事業を実施している。

委員：西海小学校の例だが、コミュニティスクールの委員には公民館長や自治会長に入ってもらっており、地域での青少年活動と一緒に参加してもらっている。

委員：学校運営協議会は条例で定数が定められた少人数の会であり、いろいろなことを実行する母体ではなく、会議体であるため田沢地区では地域の自治会の方に協力いただいて防災活動を行っている。地区の人からご協力いただいているためどういったことをやっているかが地区の人に分かるようにしていく必要があると感じている。

委員：コミュニティスクールの委員になって初めてコミュニティスクールの内容を知る。参加していない人には理解されていなくて、保護者や地域の人に理解されていかなければいけないと思う。

委員：コミュニティスクールとは少し違うが、能生小学校では見守りを1年に1回実施していたりして地域と交流している。

委員：事業に参加できる年齢が小学生までというものが多く、中学生が参加できないものが多く感じる。

委員：小学生は地域のスポーツクラブ、中学生は部活動をしている。いろいろな事業を組むがなかなか部活動があって参加できない。

委員：コロナ禍で祭りがなくなり、中学生が地域に行くことが減った。部活動の地域移行を通じて部活に入らないというようになると少しもったいないというような感じがしている。

委員：中学校の現状としてはここ数年地域移行に向けて動いているので、部活動に関しては以前より地域とつながりが強くなったように感じるが、全体で見ると減っていると思う。子どもが減ったり、コロナ禍であったりといった要因もあるかもしれない。学校としては部活動を優先してくれということはない。地域の事業にもっと魅力をだしてもらおうような大人の工夫があれば、中学生も参加してくれると思う。

委員：地区公民館事業について行っていると思うことだが、50代はなかなか参加してくれない。そのため後継者不足で悩んでいる。第2次の計画ではそういうことは載っていないが、載せていなくても良いのか。

委員：生涯学習は0歳から亡くなるまでの学習でもあるので、そういった後継者の問題だとかも庁内の中でいろいろ検討していただければと思う。

委員：計画を策定するにあたってどういった課題があってそれに対してどういった振り返りをしていかなければ実のある計画にならないと思う。計画をとおして50代を巻き込めるようなことを実践できるものであれば素晴らしいと思う。

委員：能生の駅伝でもそうだったが、いろいろな事業を積極的にやっていけば保護者や子どもも出てくるようになるのではないかと。

委員：中学生の事業参加の話に戻るが、大人から中学生に積極的に関わっていただければ、反応は冷たいかもしれないが、つながりを作っていけるのではないかと。

委員：一昔前は糸魚川のPTAは活発だった。PTAはもともと何かしなければという義務感でやっている人がいたが、コロナ禍で何もできなくなった。今になって前にやる気があった人たちが何かをやりたいと思っても、それに新しいPTAの人たちがついていけない状態である。

委員：駅北広場キターレでは幅広い世代に使ってもらっているが、多世代が混ざり合っただけで活動することはない。混ざり合ってもらうためには仕掛けを何か考えるか、それぞれの年代で盛り上がっていったらいいからではないかと思っている。今は各世代に向けて何かを与えるということをしていると思うが、それをできる人を育てていかないといけないと思う。

委員：生涯学習というのは全世代が関わっているが、市内のそういった情報を生涯学習課が集約・収集できていないと良い生涯学習社会の実現は難しいと感じた。また、外国人も増えてきているが、そういう人たちにも地域に入ってもらうことも大切だと思う。部活動の話については関係者全員が同じ方向を向いているのが気になる。

委員：外国人への支援に関しては市からの依頼を受けて小学生、中学生の外国人に他の生徒が授業を受けている間に支援を行っている。海洋高校にも同様の支援を行っている。企業については研修生というようなかたちで入ってきているので、夜に行っているセミナーには参加している人がいる。ボランティア養成の講座にも企業の人に参加しているところもある。

委員：保育現場の話では現場の意見があまり拾われていないというように感じている。また、今回初めて委員をやった生涯学習課が色々な事業を行っていることを知った。そのためもっと外に発信していくようにしてもいいと思った。

委員：土曜自習室は居場所としての提供であり、小学生から高校生も来る人がいる。また生涯学習というのは生涯に関わるので小さいころから静かな図書館で勉強できるというような環境を与えられることは大事だと思う。家庭での周知も母親で止まっていることも多いので、父親への周知も大切だと思う。

委員：現状として伝統行事の伝承が困難とあり、青海地区ではできることをやっているが、市としてはどう考えているのか。

事務局：そういったことについてはこの会議で委員の方から意見をお聞きしたい。

委員：今まで委員として参加した人はどういった流れがあるのかわかっていると思うが、私は初めての参加であるため市の意見を聞きたかった。

事務局：説明の中にあつた課題はすぐに改善する策がないので、現状課題となっていると思っている。そういった課題を共有して皆さんと一緒に考えていきたいと考えている。

委員：今日の内容をもって8月に素案を作り11月に修正していくので、そこで皆さんと改めてお話ししていければと思う。

委員：子どもへの影響を与える場所としてはやはり学校が大きいと思う。そのため部活動が地域に移行する中で学校の中で活動していく受け皿がなくなっていくかもしれない。そういったときに伝統行事の受け皿を学校の中に作っていくようなことが出来ればいいのではないかとと思う。

(助言者からの総括)

助言者：生涯学習という言葉は生涯にわたる学びの営みであるので、基本計画や基本政策は社会教育の軸となるものである。学校教育も社会教育も地域も子どもたちを育成して、自分たちが幸せになる必要がある。そのためには何十年後の目標に向かってどういうステップを踏んでいくかということをお話し合っていく必要がある。

生涯学習は全世代の社会生活を対象としているので、糸魚川市の教育委員会事務局や市長部局の内容も含んで、みんなが目指すべき姿を確認しながら全体で関わる方針を出していく必要がある。

助言者：保育現場で国等との意見に違いがあることや伝承の担い手の不足などは昔から言われていて、前はまだ何とか維持できていたが今後はどんどん先細りになっていく可能性がある。そのため子どもたちとどうかかわり地域に入ってきてもらうかという入口の課題がある。また、振り返りの中で事業の満足度が高いとの話があったが、それを広めるための市民に向けたPRも課題としてある。そのためそれぞれの人生の通り道に活動がちゃんと配置されているかが大事であり、そういう機会を糸魚川市で提供できるかということが計画の根底になければいけない。

しかし、機会を与えて事業などに参加してくれる人がいても、その人が後継者になってくれるかというのはまた別の話であり、そこには入口とは別の仕掛けが必要である。そういう時に皆さんの経験を基にした情報を市と共有していければいいのではないかと思う。そして、それぞれの団体が無理なく活動していきもらい、新しい世代がコミュニティに主体的に継続して関わってもらい導入の部分と継続的な育成をしていくという部分を考えていく必要がある。

4 その他

次回会議日程等について事務局説明

【質疑等】

特になし

閉 会(15 : 25)